

第 28 回日本義肢装具学会学術大会

熊本総合医療リハビリテーション学院 小峯 敏文（義肢装具士）

1. はじめに

第 28 回日本義肢装具学会学術大会は藤田保健衛生大学の才藤栄一教授を大会長として、大会テーマ「システムとしての義肢装具・支援機器」のもと名古屋国際会議場（図 1）にて平成 24 年 11 月 10 日、11 日の 2 日間開催された。この大会の大きな特徴は、義肢装具に関連する工学的側面をより多く前面に出したことで、また斬新かつ多彩なイベントが盛り込まれていたことである。史上最多となる 1800 名を超える参加者で活気にあふれており、ポスター発表を含めた一般演題が 206 と過去最大数となっていた。以下、大会の概要や筆者が感じたことを報告する。



図 1 学会会場

2. 大会概要

各講演、シンポジウム、パネルディスカッションも魅力的であったが、新しいイベントとして特に興味深かったのは、「ステートオブ ザ クラフト：匠を知る」と「ミート ザ メンター」であった。

前者はいわゆる義肢装具士による製作競技会であり、ポリオ用下肢装具をテーマとして行われた。会場では一次審査を通過した 3 名がそれぞれの作品についてプレゼンテーションを実施、モデルに装着してデモ歩行を行い、複数名の審査員が評価するという形式であった。全ての作品に CFRP が使われており、デザイン性や機能も高く、筆者からしても甲乙付け難い状況でもあった。300 名ほど収容できる会場は立ち見であふれるほどの満員で熱気にあふれ、多くの質問も飛び交っていた。最終的には橋本義肢製作㈱の内田氏の作品（ストラップなし、重さ約 550g）が最優秀賞となり、閉会式で表彰が行われた。

後者のミート ザ メンターでは、義肢装具に多くの貢献をされた先生方にファシリテーターが付き、若い参加者 10 数名とテーブルを囲んで教を乞うといった形式であった。残念ながら筆者は参加できなかったが、参加者達は現在用いられている諸技術の背景に、先達となった方々の多くの苦労があることを改めて理解したようであった。

その他、9 つものランチョンセミナーでは、それぞれが高名な講師によるレクチャーが企画され、参加券がすぐになくなってしまったこと、展示会場では地元トヨタが巨大ブースを設けていたことなど、とてもこの紙面だけではお伝えできないのが残念である。

3. 最後に

今回の大会は過去に類を見ない程の規模であり、2 日間の開催で終わるのは大変もったいないと感じたのは筆者だけではなかったであろう。次回の大会は平成 25 年 10 月 26 日、27 日に佐賀大学の浅見豊子教授を大会長として、佐賀市文化会館で開催される (<http://www2.convention.co.jp/jspo29>)。多くの読者が参加されることを期待している。